

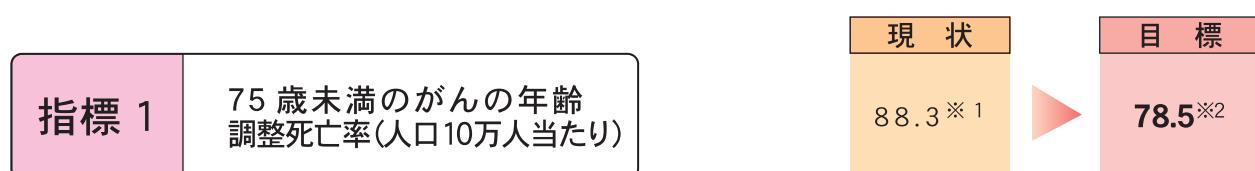
9 がん

目標

目標 1 がんによる死亡者数を減らす

目標 2 がん検診の受診率を向上させる

指標



<目標の考え方>

国のがん対策推進基本計画の目標である「平成19年度(平成17年実績)から10年間にがんの年齢調整死亡率(75歳未満)の20%減少」にあわせて、目標値を設定した。(平成17年の本市の実績:98.2)
国の目標:H17 92.4→ H27 73.9

指標 2	がん検診の受診率 (名古屋市実施分)	胃がん	9.6%※3 (28,338人)	50% (143,000人)
		大腸がん	21.7%※3 (64,029人)	50% (143,000人)
		肺がん	17.0%※3 (50,068人)	50% (143,000人)
		子宮がん	51.5%※3 (76,961人)	65% (94,000人)
		乳がん	35.1%※3 (33,483人)	50% (48,000人)
		前立腺がん	25.8%※3 (19,950人)	50% (37,000人)

・()内の数値は、がん検診の受診者数

・受診率及び受診者数の算出対象年齢は、40歳から69歳まで(子宮がんは20歳から69歳まで、前立腺がんは50歳から69歳まで)とする。

・子宮がん、乳がんの受診率

(前年度の受診者数+当該年度の受診者数)/(当該年度の対象者数)

<目標の考え方>

国のがん対策推進基本計画の目標である「平成24年度から5年以内にがん検診の受診率を50%(胃、大腸、肺は当面40%)を達成すること及び本市の実績を鑑みて、また、子宮がんはすでに50%を超えていることから、さらなる向上を目指し、設定した。

なお、平成29年度に中間評価を行い、必要に応じて、目標値を見直すこととする。

※1 平成22年の実績 ※2 平成27年の目標値 ※3 名古屋市がん検診実績(平成23年度)より

【名古屋市のがん検診】

事業	対象者※	自己負担金
胃がん検診	40歳以上の市民	
大腸がん検診	40歳以上の市民	
肺がん・結核検診	40歳以上の市民	
子宮がん検診	20歳以上の女性市民	
乳がん検診	40歳以上の女性市民	
前立腺がん検診	50歳以上の男性市民	

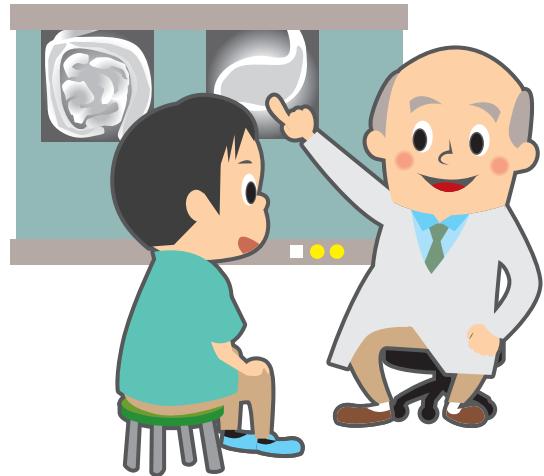
各検診
500円



※ 職場等で受診機会のない方



▲名古屋陽子線治療センター



健康コラム

がんを防ぐための12か条

がん予防では、さまざまな条件とのバランスを考えて、がんリスク(がんになる危険性)ができるだけ低く抑えることが目標となります。禁煙をはじめとした生活習慣改善が、現段階では、個人として最も実行する価値のあるがん予防法といえるでしょう。現状で推奨できる科学的根拠に基づいた日本人のためのがん予防法を紹介します。

- | | |
|----------|-------------------------|
| < 噸 煙 > | 1条 たばこは吸わない |
| | 2条 他人のたばこの煙をできるだけ避ける |
| < 飲 酒 > | 3条 お酒はほどほどに |
| < 食 事 > | 4条 バランスのとれた食事を |
| | 5条 塩辛い食品は控えめに |
| | 6条 野菜や果物は豊富に |
| < 身体活動 > | 7条 適度に運動 |
| < 体 形 > | 8条 適切な体重維持 |
| < 感 染 > | 9条 ウィルスや細菌の感染予防と治療 |
| < 検 診 > | 10条 定期的ながん検診を |
| < 受 診 > | 11条 身体の異常に気がついたら、すぐに受診を |
| < 情 報 > | 12条 正しいがん情報でがんを知ることから |

市民のとりくみ

□ 正しい知識でがん予防！

がんの多くは初期の段階では、無症状の場合が多く、早期に発見するほど生存率は高くなります。がん検診は、早期にがんを発見して早期に治療できる一方、がん検診で必ずがんを見つけられるわけではないなどということもあります。また、がんのリスクをできるだけ低く抑えるための予防法など、がんに関する正しい知識を身につけて、がんから身を守りましょう。

□ MY(マイ)検診日に定期受診！

検診は、1回受けければ良いというものではありません。そのときには異常がなくともその後、がんが発生することもあります。あなた自身のMY(マイ)検診日を決めて、忘れずに定期的に受診しましょう。

名古屋市のがん検診の受診間隔

胃がん検診・大腸がん検診・肺がん検診・前立腺がん検診

1年に1回

子宮がん検診・乳がん検診

2年に1回

□ 精密検査まで受けなきゃもったいない！

精密検査を受けないと、早期発見、早期治療のチャンスを逃すことになります。

がん検診の受診の結果、「要精密検査」と判断された方は、速やかに精密検査を受診しましょう。

要精検者のうち、精密検査を受診した人の割合（平成22年度実績）

	要精検者数 (A)	精検受診者数 (B)	精検受診率 (B/A)
胃がん	5,569人	4,068人	73.0%
大腸がん	7,908人	5,255人	66.5%
肺がん	5,121人	3,591人	70.1%
子宮がん	2,488人	1,324人	53.2%
乳がん	4,542人	3,512人	77.3%
前立腺がん	3,920人	1,989人	50.7%

□ 予防接種と検診で子宮頸がんを予防しよう！

最近、若い女性の子宮頸がんの罹患率が増加してきています。子宮頸がんの原因はほぼ100%「ヒトパピローマウイルス(HPV)」感染によるものです。このHPVと戦う抗体をつくるワクチンの接種とがん検診で子宮頸がんを予防しましょう。

□ 生活習慣の見直しも重要ながん予防！

がんの原因は喫煙、食生活、運動等さまざまなものがあります。これらの生活習慣の見直しを行いがん予防を実践しましょう。

市のとりくみ

● がん予防の推進

- ・がんを正しく理解していただくため、ホームページ等の充実を図り、がんのリスク要因や罹患、死亡の状況、さらにはがん治療についてなど、がんに関する情報をよりわかりやすく提供します。
- ・がん検診に関する正しい知識の普及啓発を図るとともに、検診を受けることによりがんを早期に発見し、適切な治療を受けることで、がんによる死亡を減少させることができるということ、一方、検診ですべてのがんが見つかるわけではないということなどについても十分に理解していただけるような広報をします。
- ・子宮頸がん予防接種については、予防に効果的な年齢等を踏まえた情報の提供と接種に向けた取り組みを進めます。
- ・がんに対する正しい知識の普及啓発等、子どもへのがんに対する理解及び、がんの予防に関する知識が深まるよう努めます。
- ・医療保険者や職域、民間企業との連携により、がん検診の必要性や正しい知識の普及啓発等、情報の提供に努めます。
- ・がん予防の推進のための施策は、女性特有のがんや働く世代等、性別や年代に応じて好発するがんの種類を考慮して効果的に実施します。

● がんの早期発見の推進

- ・科学的根拠に基づくがん検診を実施するとともに、精度管理の充実を図り、検診の質の向上に努めます。
- ・休日における検診の拡大や利便性の高い場所での実施など、受診しやすい環境の整備を進めます。
- ・効率的効果的な広報啓発に努め、がん検診の受診率向上に努めます。

● がん医療水準の向上及び緩和ケア、在宅医療の充実

- ・名古屋陽子線治療センターをこの地域全体の財産として広域的に活用し、より多くのがん患者に陽子線治療を提供します。
- ・民間企業との連携により、陽子線治療を受けやすい環境整備に取り組むとともに、最新かつ正確な情報を発信して、陽子線治療の普及に努めます。
- ・医療関係者や愛知県等との連携を図り、がん医療水準の向上や緩和ケア、在宅医療の充実に向けた情報提供や広報等に努めます。
- ・愛知県と連携し、効果的ながん対策の立案及びがん医療水準の向上に資する情報を得るためにがん登録の推進に努めます。

● がん患者等の支援

- ・がん相談・情報サロンの充実を図り、がん患者やその家族等の心のケアに努めます。
- ・関係団体等との連携によるイベントや講演会等との実施、支援を図ります。

● 情報収集及び提供

- ・がん相談・情報サロンにおける情報提供を進め、がんに関する情報を提供します。
- ・医療関係者や愛知県等との連携により、がん医療に関する情報の収集、提供に努めます。
- ・ホームページ等の充実により、がんに関する幅広い情報の提供やがん対策情報の発信を進めます。



「保険会社とのがん対策に関する協力協定」に基づいて作成された
がん対策を推進するためのロゴマークです。

これまでの経過と課題

がんによる死亡の傾向

がんは死亡原因の第一位で、3人に1人はがんで亡くなっています。また、2人に1人は一生のうちに何らかのがんにかかる時代を迎え、がんは国民病の一つになりました。

本市のがんによる死亡者数は、高齢化に伴い増加していますが、こうした高齢化の影響を除き、さらには壮年期のがん死亡の動向を高い精度で評価するため、75歳未満のがんの年齢調整死亡率(10万人当たり)でみると、平成22年は、88.3であり、減少傾向にあります。

がん検診

がん検診の受診率は、がん検診ガイドの全世帯への配布やワンコインがん検診、がん検診推進事業などの取り組みにより、平成21年度以降増加傾向にあります。

一方「健康に関するアンケート(平成23年度)」によると、「自覚症状がない」(36.8%)「健康に不安がない」(28.7%)「受診が面倒」(20.6%)などの理由でがん検診を受診しない方もいます。

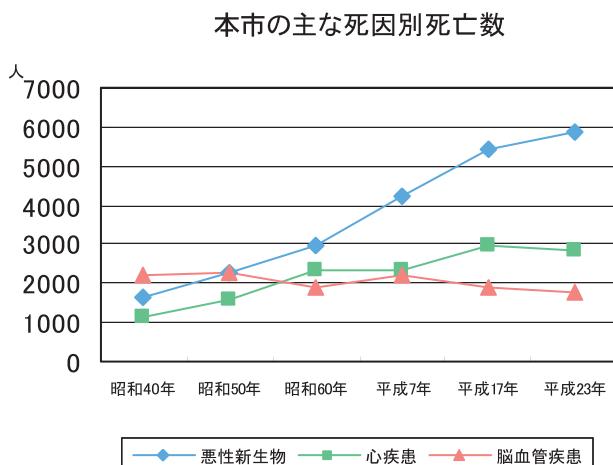
こうした意識を持っている方に、がん検診を定期的に受診していただけるよう、検診の必要性やがんのリスク要因、罹患率の状況などのがんに関する正しい知識の普及啓発を充実することが必要です。

また、休日検診の充実を図るなど、働く世代の方々ががん検診を受診しやすい環境づくりが求められています。

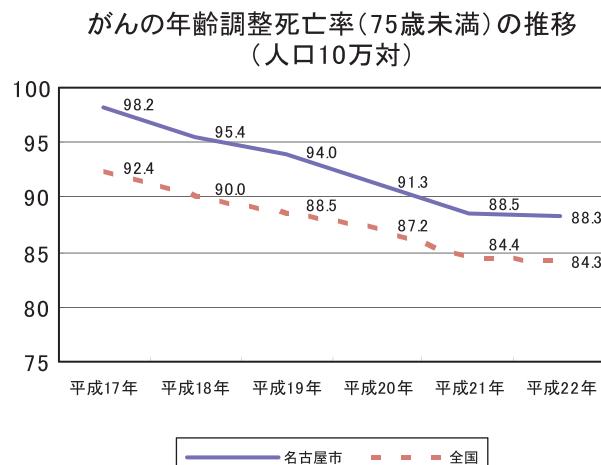
がん対策の推進

「名古屋市がん対策推進条例」を平成24年3月に制定しました。この条例では、市の責務、市民の役割、保健医療関係者等の役割を明らかにし、市民総ぐるみによるがん対策の実施を目的としています。

条例の制定を踏まえ、医療機関をはじめ医療保険者や関係団体と連携を図り、がんに関する情報提供や普及啓発、ワンコインがん検診など本市独自の予防医療の推進により、がんの早期発見及び重症化の防止、がん患者等の負担軽減などに取り組む必要があります。



出典：名古屋市健康福祉年報(人口動態統計編)



出典：名古屋市の数値は名古屋市健康福祉年報(人口動態統計編)を基に算出
全国の数値は独立行政法人国立がん研究センター、がん対策情報センターより